



人が人に何気なく できるサポート

大阪府立工芸高等学校 3年

たけ とし ゆう や
竹歳 悠也

私は、幼い頃から利用していた喜連瓜破駅について調査し、当たり前のように思っていました。そこには人が人にできる何気なく助け合う仕組みがあるのだと思いました。今回は、喜連瓜破駅の駅長さんに協力していただいて撮った構内のたくさんの写真と一緒に説明したいと思います。どの駅にも何気なくあると最初は思ったサポートも、喜連瓜破の周辺の状況から考えて非常に上手く支えていることに気づきました。

まず私が注目したのは、ホームに大きく標記されているマークと、わかりやすい文章です。障がいを持っていたり、高齢の方でも全ての人が理解しやすいデザインになっていると思います。また、駅員さんがホームと電車を繋ぐスロープを使い、車いすを使用している人を助けたり、相手と何気なくコミュニケーションを取るところもよく見かけます。

次に構内を改めて一周してみるとエレベーターの乗り場の近くにスロープが配置されていたり、トイレには車いすの方でも利用できるバリアフリートイレの配置や天井にある音声案内など、何気なく人をサポートするやさしさがあると発見しました。

谷町線の喜連瓜破駅周辺にはたくさんの高

齢の方や、特別支援学校が近くにあることから障がいを持った方が大阪の中では多い印象があります。なので、必然的に一般の人が救護したり、声をかけたりしてサポートする場面もよく見かけます。「お手伝いしましょうか?」、そのようなやり取りを見たり聞いたりすると、たとえ断られていたとしてもコミュニケーションを通じて状況がわかり、気付くこともあると思います。このように自然に人を守る仕組みがあると思います。喜連瓜破駅のみならず大阪の駅をはじめとして、どの駅でも人が人をサポートできるようなやさしさが増えたらいいなと思っています。



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5

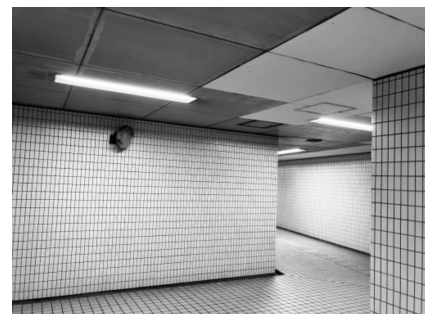


写真6



写真7



写真8



写真9



写真10



写真11



写真12